

## チェンジギヤ機構に特徴のある自転車（1937年頃）



ロードレースに使われる自転車には、チェーンを異なる大きさのギヤに架け替えることができるチェンジギヤ機構が付いています。急な坂道が続くコースではこの機構をいかにもうまく利用するか、これも勝負のポイントの1つになります。このためチェーンをスムーズに架け替え、しかもたるみが生じないための機構の開発が19世紀以降続けられています。

この自転車もロードレース用でチェンジギヤ機構が付いていますが、その特徴はペダルの左脇にあるアームです。このアームがばねの力でチェーンのたるみを調整するもので、1930年代から40年代に広く使われていました。しかし、下に伸びたアームが地面と接触して壊れてしまうこともよく起こりました。

自転車文化センター 谷田貝一男